

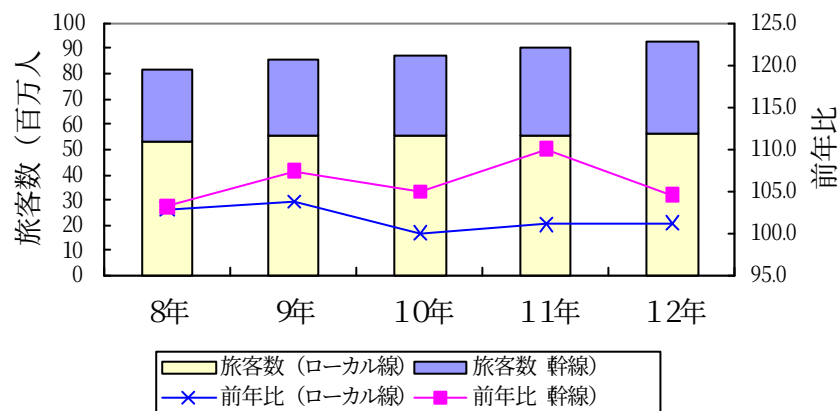
平成 12 年の国内航空旅客輸送の動向について

1. 全体の輸送動向

国内定期航空旅客輸送は旅客数 9,289 万人で対前年比 2.5%の増加となった。そのうち、座席数が幹線 3.9%増、ローカル線 1.7%増で伸びに開きがあることもあり、旅客数は幹線が 3,647 万人（4.6%増）、ローカル線が 5,642 万人（1.3%増）となった。

（注）幹線とは札幌（千歳）、東京、成田、大阪、関西、福岡、那覇の空港を相互に結ぶ路線をいい、ローカル線はこれ以外の各路線をいう。

国内航空旅客数の推移



出典 情報管理部 航空輸送統計年報

2. 路線別の輸送動向

平成 12 年の路線別輸送実績の上位 50 位を見ると、次ページのとおりであるが、平成 12 年の路線別の動向の特徴としては、主に以下の 2 点が挙げられる。

- ・便数が増加した東京－大阪間では大幅に輸送人員が増加した一方、スカイマークエアラインズが路線廃止した大阪－福岡間では、11 年と比較して輸送人員の伸びが停滞。
- ・前年比で輸送人員が減少した路線の多くが北海道発着又は大阪発着であった。

以下、この 2 点について、月ごとの輸送人員の推移等により分析を行うこととする。

平成12年路線別輸送実績

旅客 (上位50路線)

路線別旅客数、座席利用率は次の通りである。

順位	路線別	平成12年		平成11年		旅客数 H12/11 (%)
		旅客数(人)	座席利用率(%)	旅客数(人)	座席利用率(%)	
1(1)	東京(羽田)－札幌(千歳)	8,894,739	65.4	8,634,632	66.2	103.0
2(2)	東京(羽田)－福岡	7,928,823	64.1	7,498,385	62.9	105.7
3(4)	東京(羽田)－大阪(伊丹)	4,227,597	72.0	3,606,740	69.8	117.2
4(3)	東京(羽田)－沖縄(那覇)	3,731,165	73.3	3,614,235	73.9	103.2
5(7)	東京(羽田)－大阪(関西)	2,247,908	65.7	1,910,447	68.6	117.7
6(5)	東京(羽田)－広島	2,215,273	65.7	2,019,124	68.6	109.7
7(6)	東京(羽田)－鹿児島	2,027,389	60.6	1,960,139	64.6	103.4
8(8)	東京(羽田)－金沢(小松)	2,012,382	71.1	1,873,604	70.6	107.4
9(11)	東京(羽田)－熊本	1,533,705	64.5	1,479,333	60.0	103.7
10(10)	東京(羽田)－長崎	1,516,444	60.9	1,501,437	63.0	101.0
11(9)	大阪(関西)－札幌(千歳)	1,446,928	59.6	1,667,645	63.6	86.8
12(15)	名古屋－福岡	1,475,835	62.8	1,308,974	59.2	112.7
13(12)	東京(羽田)－函館	1,404,134	64.5	1,466,284	65.7	95.8
14(14)	大阪(伊丹)－福岡	1,394,219	69.4	1,314,575	67.4	106.1
15(13)	名古屋－札幌(千歳)	1,324,168	60.8	1,376,208	61.9	96.2
16(18)	東京(羽田)－宮崎	1,320,221	56.4	1,264,989	59.5	104.4
17(16)	大阪(伊丹)－札幌(千歳)	1,315,931	67.8	1,305,861	64.0	100.8
18(17)	福岡－沖縄(那覇)	1,299,904	63.2	1,267,111	61.4	102.6
19(19)	東京(羽田)－大分	1,294,354	62.5	1,241,182	58.6	104.3
20(20)	東京(羽田)－松山	1,276,333	64.2	1,231,474	62.8	103.6
21(22)	東京(羽田)－高松	1,178,144	68.3	1,132,915	66.5	104.0
22(21)	大阪－鹿児島	1,143,888	65.8	1,158,781	65.9	98.7
23(23)	東京(羽田)－青森	992,156	65.4	976,814	62.4	101.6
24(27)	大阪(関西)－福岡	929,157	54.6	869,112	54.7	106.9
25(24)	大阪(関西)－沖縄(那覇)	907,857	65.5	940,247	60.1	96.6
26(26)	沖縄(那覇)－石垣島	907,370	63.9	897,985	61.8	101.0
27(25)	大阪(伊丹)－仙台	896,850	67.2	930,950	70.2	96.3
28(28)	東京(羽田)－高知	866,850	61.7	820,256	58.3	105.7
29(31)	東京(羽田)－富山	860,853	71.3	801,973	74.7	107.3
30(30)	東京(羽田)－秋田	857,601	61.5	811,170	65.8	105.7
31(32)	東京(羽田)－徳島	799,643	59.4	781,174	60.3	102.4
32(33)	大阪(伊丹)－宮崎	778,933	61.7	777,838	63.7	100.1
33(29)	大阪(伊丹)－沖縄(那覇)	752,842	71.0	811,563	71.4	92.8
34(36)	大阪(伊丹)－松山	736,970	67.7	715,884	70.4	102.9
35(34)	東京(羽田)－旭川	736,231	57.3	767,869	58.8	95.9
36(35)	大阪(伊丹)－熊本	726,251	67.1	723,802	67.6	100.3
37(38)	鹿児島－福岡	720,628	57.9	705,409	54.5	102.2
38(39)	名古屋－沖縄(那覇)	709,638	66.7	700,479	66.0	101.3
39(37)	仙台－札幌(千歳)	708,735	53.3	705,411	56.8	100.5
40(41)	沖縄(那覇)－宮古島	682,268	57.3	670,299	55.3	101.8
41(40)	大阪(伊丹)－高知	661,361	63.6	681,120	63.8	97.1
42(45)	東京(羽田)－山口宇部	658,394	65.2	604,130	61.9	109.0
43(42)	福岡－宮崎	640,888	52.6	645,731	53.6	99.2
44(44)	大阪(伊丹)－長崎	620,202	54.4	621,629	58.4	99.8
45(43)	福岡－札幌(千歳)	620,147	65.9	642,347	64.9	96.5
46(47)	東京(羽田)－帯広	528,533	61.7	527,968	64.4	100.1
47(46)	東京(羽田)－釧路	527,724	57.4	540,840	58.0	97.6
48(49)	東京(羽田)－出雲	505,069	68.3	470,603	63.5	107.3
49(48)	東京(羽田)－女満別	502,584	57.7	524,714	58.3	95.8
50(--)	東京(羽田)－岡山	488,754	68.7	416,598	64.5	117.3

3. 東京－岡山間の前年順位については、51位以下のため(--)とした。

①東京－大阪間のシャトル便開始後の動向

平成12年7月から東京－大阪間で3便、東京－関西間で3便の計6便が増便され、シャトル便ホームページの開設、シャトル便カウンターの設置等が実施されている。

東京－大阪間の便数

	12年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東京－大阪	15(15)	15(15)	15(15)	15(15)	15(15)	15(15)	18(15)	18(15)	19(15)	19(15)	19(15)	19(15)
東京－関西	11(10)	12(10)	12(10)	12(12)	12(12)	12(12)	15(12)	15(12)	15(12)	15(12)	15(11)	15(11)

注：()内は前年同月の便数

シャトル便が開始された後の7月～12月の東京－大阪・関西間の旅客数は、前年同期比で18.6%増(1月～6月は15.9%増)となっており、全路線の総

計である 2.3%増（1 月～6 月は 2.8%増）に比べて、大幅に増加している。

しかしながら、7 月～12 月の座席数の伸びは、東京－大阪・関西間で前年同期比 29.4%増であり、旅客の伸びは座席数の伸びほどには増加していない。

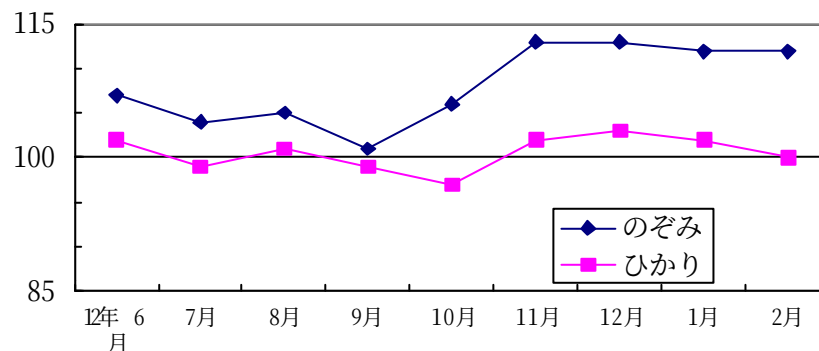
東京－大阪・関西間の輸送量の推移		
	12年1月～6月	7月～12月
旅客数（千人）	2,956(115.9)	3,520(118.6)
座席数（千席）	4,050(104.0)	5,249(129.4)
全路線総計		
	12年1月～6月	7月～12月
旅客数（千人）	43,796(102.8)	49,098(102.3)

（ ）内は前年同期比

ちなみに、東京－大阪間における他の輸送機関の輸送実績（7 月～12 月）を見ると、高速バスで前年同期比 1.2%減となった。

また、東海道新幹線の 6 月以降の断面輸送量の実績では、「のぞみ」においては、各月とも前年同月比プラスとなっている。これは、J R 東海が横浜・多摩地区の利用者に対する利便性の向上施策として平成 12 年 10 月から「のぞみ」の新横浜停車本数を一日当たり 16 本から 32 本に増加させるなどのサービス向上策を実施しており、その効果等により断面輸送量が増加したのではないかと考えられる。

東海道新幹線断面輸送量の推移 前年同月比



注：情報管理部作成。

②スカイマークエアラインズ路線廃止後の大阪－福岡間の輸送動向

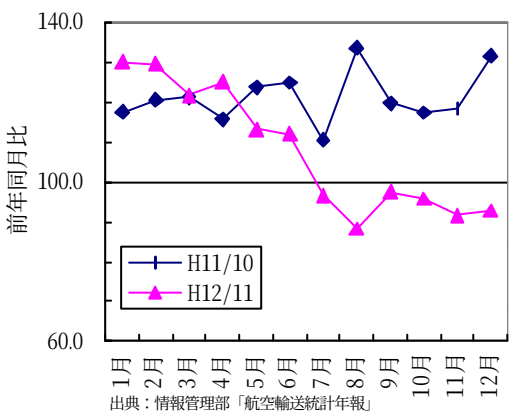
大阪－福岡間には、平成 11 年 4 月よりスカイマークエアラインズが新規参入したが、平成 12 年 7 月より路線を廃止している。また、J R 西日本が 12 年 3 月より「ひかりレールスター」の運行を開始していることから、その影響も含めて月ごとの輸送動向の変化をみてみることにする。

大阪（伊丹）－福岡間は、10 年から 11 年にかけては 21.1%の増加を示し、

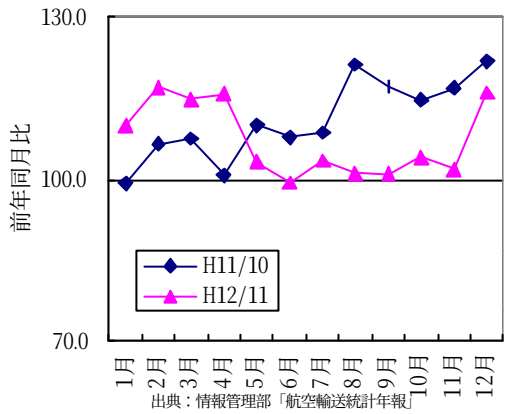
12 年に入っても 4 月までは 20% 台の伸びを示していたが、5、6 月に 10% 台の伸びになった後、スカイマークエアラインズが路線廃止した 7 月以降は前年同月比で 5～12% のマイナスとなった。

同時期の大阪（関西）－福岡間の輸送人員を見ると、4 月までは 10% 台の伸びだったのが 6 月に前年割れとなり、7 月から 11 月までは 1～4% 台の低い伸びとなっている。両路線ともに 4 月以降に輸送人員の伸びが低下したのは、JR 西日本の「ひかりレールスター」運行の影響が考えられ、また、スカイマークエアラインズの路線廃止により、大阪（伊丹）－福岡間は輸送が大きく減少している。

大阪－福岡旅客数の推移



関西－福岡旅客数の推移



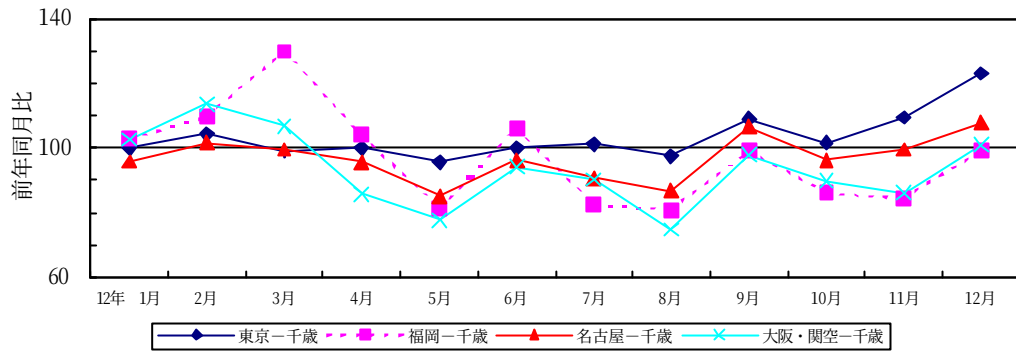
③前年比で輸送人員が減少した路線の動向

12 年の路線別旅客輸送実績（上位 50 路線）の中で、対前年比がマイナスとなった路線は 14 路線あったが、そのうち北海道発着路線が 7 路線、大阪・関西発着路線が 7 路線（重複あり）、それ以外の地域間の路線は 1 路線となり、ほとんどが北海道発着又は大阪・関西発着と関連のある路線であった。

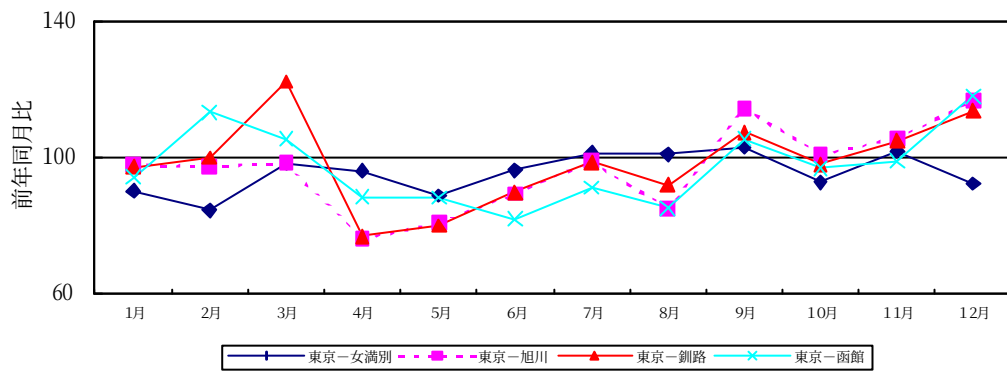
平成12年路線別旅客輸送実績上位50路線中、対前年比減少となった路線

路線	前年比	路線	前年比
関西－千歳	86.8	福岡－千歳	96.5
大阪－沖縄	92.8	関西－沖縄	96.6
東京－函館	95.8	大阪－高知	97.1
東京－女満別	95.8	東京－釧路	97.6
東京－旭川	95.9	大阪－鹿児島	98.7
名古屋－千歳	96.2	福岡－宮崎	99.2
大阪－仙台	96.3	大阪－長崎	99.8

千歳空港関連路線の旅客数推移



千歳空港以外の北海道路線の旅客数推移



大阪発着路線の旅客数推移

